

氏 名	きむら 木村 まさみ
学 位 の 種 類	博士（英語教育学）
学位記の番号	第 225 号
学位授与年月日	令和 7 年 3 月 20 日
学位授与の要件	
学位論文の題目	A Study of Current Pronunciation Issues of Japanese English Learners
論文審査委員	主 査 玉井 暲 副 査 富永 英夫 副 査 前原 澄子 副 査 田中 真由美 副 査 ケビン バートレット 副 査・学外審査委員 梅原大輔（甲南女子大学）

論文内容の要旨

目的・背景

本研究は、英語を専攻する日本人学部生が直面する発音上の課題を調査し、英語の発話における明瞭性に影響を与える音素（子音・母音）および一部の超音素（語強勢・ピッチ）に焦点を当てている。

グローバル化が進む現代において、英語は世界中で重要なコミュニケーションツールとなっており、特に非ネイティブ話者同士のやり取りにおいても重要な役割を果たしている。しかし、日本語と英語の音韻体系の根本的な違いにより、日本人学習者は英語の発音に苦戦することが多く、この課題は明瞭性(intelligibility)の低下を引き起こし、学習者の自信やコミュニケーションの効果にも影響を及ぼす。こうした課題に対応するため、本研究では日本人学習者が直面する発音上の困難を明らかにし、より効果的な発音指導や自律的学習の方法を模索、提案する。

研究課題

具体的な研究課題として、(1) 日本人英語学習者はどの音素を明瞭に発音することが難しいと感じているのか、(2) 学習者が実際に発音困難な音素が明瞭性に影響を与えるかを検討。これら 2 つの主要な研究課題に加え、発音の明瞭性に関する具体的な側面を

探るため、3つの副研究課題も設定。A. 学習者が取り組む3つの条件下のタスク（診断単語リストおよび短いパラグラフの読み上げ、自由発話）によって音素の発音に違いはあるか、B. 学習者は自分の発音の難点を自覚しているか、C. 強勢とイントネーション（ピッチ）のどちらが明瞭性に影響するか。

また、音声認識ソフトやモバイルアプリなどのデジタルツールの活用可能性にも着目し、自律的な発音学習を支援する方法を探る。本研究は、この特定の日本人英語学習者の発音指導に向けた効果的なアプローチを提案し、コミュニケーション能力向上に貢献することを目指す。

研究方法

本研究では、アンケート調査および発話録音データの収集を行い、発話録音は次の3つの条件で実施。1. 診断用単語リストの読み上げ、2. 短いパラグラフの音読、3. 自由発話

発音の明瞭性評価には、本研究を行った研究者が作成した4つの評価尺度（1) perfectly intelligible, 2) fairly intelligible, 3) relatively intelligible, and 4) unintelligible）を使用。録音データは、2人の評価者（本研究の日本人研究者、オーストラリア人ネイティブスピーカーの准教授）が分析。両評価者は音素および超音素の両方を分析し、特に目立った超音素（語強勢とピッチ）については、Praat (Boersma & Weenink, 2024) を使用し、超音素的特徴を可視化し、客観的に分析。

調査結果および考察

アンケート調査と発話録音データの分析結果から、英語を専攻する日本人大学生における特定の発音困難な母音と子音が明らかになり、既存の研究とも一致する結果が得られた。

発話録音データを分析した結果、参加者の発音には顕著な問題が見られた。具体的には、発音の問題があった9つの母音（短母音：/æ/, /ʌ/, /ʊ/, /e/、長母音：/ɔ:/, /ɜ:/, /ɑ:/、二重母音：/əʊ/, /ʊə/）のうち、3つの母音（/æ/, /ɔ:/, /əʊ/）、および9つの子音 /l/, /r/, /θ/, /ð/, /d/, /v/, /ʃ/, /m/, /tʃ/ のうち、6つの子音 /l/, /r/, /θ/, /ð/, /v/, /d/ において、どの録音条件下でも一貫した問題が確認された。また、これらが異なる母音や子音に置き換えられる傾向が確認された。この置き換えは明瞭性を低下させる主な要因となっているのと同時に、発音の困難さは録音条件によって異なることも確認された。さらに予想外の結果として、/ʃ/や/tʃ/といった摩擦音についても、母語に似た音があるにもかかわらず、一部の学習者にとって課題となっていることが判明した。さらにアンケート調査と発話録音データの結果から、学習者にとって発音が難しいと認識している音素と実際に発話した際に困難であった音素との間に不一致があることも明らかとなった。例えば、/θ/や/ð/を発音困難であることを認識している

一方、/l/と/r/の困難さはあまり認識されていなかった。

超音素においては、ピッチより語強勢の方がより明瞭性に影響することが明らかとなった。Praat を使った音響分析により、influence と annual における語強勢の配置が正確な学習者は、波形やスペクトログラムがネイティブスピーカーに近く、高い明瞭性を示した。一方、語強勢を誤った学習者は、明瞭性が低下し、単語の意味の誤解を招く可能性があることが分かった。ピッチの分析では、単調なピッチそのものが明瞭性を著しく低下させるわけではないことが判明した。すなわち語強勢が正確であれば、ピッチが平坦であっても一定の明瞭性が保たれるということである。しかしながら、高めのピッチがさらに明瞭性を向上させるという事も示唆された。これらの結果は、2 人の評価者によっても確認され、ピッチよりも語強勢の方が明瞭性に影響することが示された。

最後に診断単語リストの分析結果を見ると、子音の問題が顕著な学習者グループ A とそうでないグループ B が存在することも確認された。

研究の意義

理論的意義として、本研究は日本人学習者が特定の音素に対して直面する、発音上の根強い課題を、過去の研究と照らし合わせながら改めて浮き彫りにした。特に、母音と子音の誤発音の傾向を明らかにすることで、明瞭性の向上に寄与する要因を理論的に考察した。

実践的意義として、学習者の発音上の課題を踏まえた指導の重要性、および自律学習の可能性が示された。発音の誤りの傾向から、母音・子音・超音素的な要素をそれぞれ個別に扱う、ターゲットを絞った発音指導を子音の問題が顕著な学習者グループ A とそうでないグループ B それぞれに対して提案し、学習者の特定の課題に応じて指導法を調整できるようにすることが重要であると示唆した。学習者の目標として、英語をリンガフランカとして使うための「伝わりやすい発音」か、外国語としての「ネイティブに近い発音」かに応じた指導が重要であることも示唆された。さらに、デジタルネイティブ世代の学習者にとって、AI や音声認識技術 を活用することが非常に有効であることも指摘された。例えば ELSA Speak や 発音図鑑 などのアプリを使用することで、学習者は自律的に学習し、即座にフィードバックを得ることができる。このようなデジタルツールを活用したアプローチが、学習者の自律的な学習を促進し、継続的な改善を支援する可能性を示した。

研究の限界

本研究にはいくつかの限界がある。まず質的研究における発音分析 は、評価者の言語的背景や主観性が伴うという点が挙げられる。評価者の判断に依存する部分があり、客観的なデータ収集の限界を考慮する必要がある。次に、サンプルサイズ が比較的小さかったため、一般化が難しいという点である。少人数のデータに基づいて結果を出してい

るため、他の学習者層への適用については慎重に考えるべきである。また、発話録音データを収集するために使用した資料は、学習者にとって自然な発話パターンを反映しているとは限らないという点も問題となり得る。さらに、超音素の分析が語レベルの強勢とピッチに限定されており、文レベルの強勢やイントネーション、リズムといった広範な発音課題を捉えきれていない可能性もある。文脈によって発音が変化する可能性もあり、文レベルでの分析がより包括的な理解に繋がると考えられる。

今後の研究の方向性

今後の研究では、以上の限界を克服し新たな領域に取り組むことが重要である。評価の客観性を高めるため、様々な言語背景を持つ評価者を増やすことに加え、音声認識ソフトや音響分析プログラムを活用した評価手法の開発が考えられる。さらに、より多様な参加者を含むサンプルサイズの拡大により、結果の一般化の可能性を高めることが可能になる。また、より自然な発話状況でのデータ収集により、実際のコミュニケーションにおける発音能力を把握することが期待される。超音素の特徴についても、文のリズムやイントネーションなどの詳細な分析を行うことで、より包括的かつ実践的な発音指導に向けた知見が得られるであろう。

結論

本研究は、英語を専攻する日本人大学生が直面する発音課題の理解を深め、効果的な指導方法の開発に寄与している。さらに、参加者の自己認識と実際の発音の困難さとの不一致を明らかにすることで、日本の英語教育における発音指導の質を向上させる可能性を示している。また、研究で得られた超音素のデータは、今後の研究の基盤として活用し、学習者が現実的かつ達成可能な目標を設定し、学習を進めていく際の指導および自律的学習に貢献することが期待される。本研究は、日本人英語学習者の発音上の課題をより深く理解することに貢献するだけでなく、外国語および第二言語習得の分野にも寄与し、英語のコミュニケーション能力向上を支援するための理論的・実践的示唆を提供するものである。